

## 【2022年度ご報告】

### ソフトバンク「チャリティホワイト」プロジェクト ～被災地で、子どもたちのためにできたこと



赤い羽根の中央共同募金会では、『ソフトバンク株式会社』が実施している携帯電話契約者向け社会貢献サービス「チャリティホワイトプロジェクト」（2013年～）の寄付金をもとに、東日本大震災の被災地の子どもたちを継続的に支援する助成事業を実施しています。

2022年度の助成先の活動例をご紹介します。

#### ■チャリティホワイトプロジェクトによる助成 宮城県東松島市の小学生を対象にして開催する夏キャンプ (NPO法人サクラハウス)

チャリティホワイトの助成先であるNPO法人サクラハウスでは、2011年から宮城県東松島市の野蒜(のびる)地域で、小学生を対象に放課後クラブやキャンプ等のイベントを開催しています。当時被災した子どもたちは心に大きな傷を負い、今も目に見えない様々な後遺症に苦しんでいます。また、当時を知らない今の子どもたちも、震災を経験した大人たちや地域による影響を受けて育っています。

今回、赤い羽根チャリティホワイトの助成金をいただき、山形県で小学生42名と学生スタッフ10名、職員3名の総勢55名で2泊3日のキャンプを開催しました。



今回のキャンプでは震災当時小学生だった子どもたちが学生スタッフとして参加してくれ、その成長した姿を見ることができて喜ばしい一方、今でも東日本大震災による後遺症で苦しんでいることを知らされました。しかしながら子どもたちと交流することで、自身が他者にとって必要とされることに喜びを感じ、冬のキャンプにもスタッフとして参加したいと言ってくれました。

野蒜の地域は震災後、まちづくり計画により高台に集団移転を行いました。震災によってバラバラになってしまった住民同士の交流や、地域のコミュニティの再生などにも時間がかかっています。

しかしこうしたキャンプを通して学生スタッフと小学生たちが親睦を深め、キャンプ後には家の近くで挨拶を交わすなど、住民交流の一助にもなっています。

また、キャンプをきっかけに、放課後家に引きこもりがちだった小学生がサクラクラブに遊びにくるようになり、学生スタッフと外で遊んでいる姿も見られるようになりました。

当時を経験した子どもたちが社会に出ていく姿を見守りながら、これからも地域の復興、心の復興に寄与していきたいと思っています。そしてこの活動を継続していくことで、町全体に豊かな交流が広がっていくことも期待しています。

津波でたくさんのものを失った子供たちに寄り添い続け、これからもこの地域で活動を続けていきたいと思っています。今回ご支援いただいたことに、心より感謝を申し上げます。